

## 第8期みらいくる会議第3回会議 概要

令和5年2月13日(月) 午後2時～4時 区役所会議室 A/B

出席者 みらいくる会議委員 出席11名 欠席4名

区：千代田清掃事務所長 同所各係長 担当職員

### 議事内容

- ① 前回会議で持ち越しとなっていた事項について
  - ・組成調査での不適正ごみの内訳および推移について
  - ・災害廃棄物処理計画（案）について
  - ・マンション管理・ごみの捨て方等の条例による規制について
- ② みらいくる会議で検討する事項について
- ③ その他 事務連絡

### 主な内容・意見

- ① 前回会議で持ち越しとなっていた事項について
  - ・組成調査での家庭系、事業系別の不適正ごみの内訳とその推移  
燃やすごみ、燃やさないごみ別に事業系、家庭系別の不適正ごみの内訳とその9年間の推移を資料により説明し、質疑応答。
  - ・災害廃棄物処理計画（案）について、最終案ができたので説明したうえで質疑応答
  - ・マンション管理やごみの捨て方の条例化による規制について、参考となる情報を紹介

### ○不適正ごみについて

問：不適正ごみの削減について、やはり区としてはこのみらいくる会議に何らかの対策の提案を求めているのか。みらいくる会議としてふさわしい提案を考えていくべきなのか。

答：ごみの減量について、このみらいくる会議での意見を行政に生かしていこうという会議なので、この推移等を見て気づきや問題意識、課題があれば、ぜひご指摘いただきたい。

問：不適正ごみも内容を見ると、資源系のごみの混入は減少傾向にある。燃やすごみは横ばい状態で変化がない。区のほうで推移をみてどこに注目しているのか。

答：ごみの分別について冊子を配って浸透を図っているところだが、まだ民間事業所の資源回収の浸透が不十分であることを問題意識として持っている。

問：減らない理由があるのか。何も対策をしていないので、毎年同じようなことになっているのか。二酸化炭素の排出量のように、これぐらいで維持していくという考え方もあるし、対策を講じて減少を図っていくのか。

問：単にごみの量だけでなく、人口（増加）と比率してどうなのかを考えないといけないのではないか。人口は増えているので、努力してこの程度に維持できているのかもしれない。

答：区としては分別についての周知に力を入れていく。ごみアプリの活用で効果が出てきているという認識も持っている。

補足意見：もっと学生に使いたいと思われるアプリにしてもらいたい。

アプリを使うことで、社会貢献できるようなインセンティブが与えられると、利用がすすむのではないか。

次のアプリ開発の時には、こういう会議で皆さんの意見を吸い上げて、また学生の意見を反映させて作ってほしい。

委員長総括：今回はとりあえずごみの中に不適正廃棄物がどれだけ含まれているかという現状を示してもらった。時折データを出してもらって、今後、何か対策をみらいくる会議として講じていく必要性があれば、検討をしていきたい。

○災害廃棄物処理計画について

問：災害時のし尿処理について

答：下水道管を使用し、区では携帯用のトイレも配布する予定である。

問：日常業務に加えて、大量の廃棄物を処理しないといけなくなるが、対応は？また人員体制についてはどうか？他県から応援は来るのか？

答：大量のごみが一度に出てくるわけではないので、一時仮置き場を作って対応していく。

人員体制については、平日の昼間であれば確保できる。日曜日は別途出勤体制を作る。機材についても、千代田区は（ごみの収集が）直営なので収集車は用意できる。他県からの応援は東京都が窓口となって要請していくことになる。区の姉妹都市からの応援もある。

問：災害ごみの分別を、区民はできるのか、区民にやってもらえるのか。また太陽光パネルの処理についてはどうか

答：分別については周知を徹底するしかない。太陽光パネルについては東京都の設置の義務化と関係してくる。都の方針を待ちたい。

関連：仮置き場に、どれだけ分別された状態で入ってくるのかがポイントではないか。分別は災害時には非常に困難だと思う。そのためにも平時から何か震災を絡めて、危機感を持って、こうした分別の周知をしっかりとっておく必要があるのではないか。

災害時に区民は何をしなければいけないのか、初動でどうすればよいのかを見られるようにしてほしい。

災害時に、ごみの処理について指揮ができる人を確保しておかないといけないのでは。

普段から災害時を想定してのごみの出し方を教育してもらう必要があるのではないか。清掃事務所だけではなく、区でちゃんとそうしたことを日頃から備えておく。町内会に入っている町会員だけでなく、それ以外の方たちも浸透させていく必要がある。

問：阪神淡路大震災のさいも、道路が開通しなくて救助が遅れたと聞いている。ごみの処理

についても動線の確保が大切ではないか。瓦礫が出てきた時のことは計画されているが、実際にどう実現されるのか、シミュレーションしたものを我々に見せてほしい。

答：この計画の上位計画である地域防災計画において道路啓開については押さえている。

関連：想定している災害、地震で想定する死者とか、全壊の損害の総数とかからすると、10年分瓦礫が出てしまうというのは、イメージが合わない。そんなにたくさん瓦礫出ないのではないかと思える部分がある。最悪を想定するという意味では、よいと思うが。

委員長総括：震災廃棄物に関しては、この計画案は計画案としてベースとなる考え方であって、もう少し現実レベルに合わせてシミュレーションしたものをこの会の中で示していただいて、次回以降お話しいただけると良いと思う。

実際に我々としてどういうことをしていくべきなのかということ、考える場所だと、この会議は思っているの、その辺りを次回以降お示しいただければと思う。

#### ○マンション管理・ごみの捨て方等の条例化による規制について

・いただいた主な意見

(区でマンション管理適正化推進計画を策定していると報告) せっかくこういうものがあるのだったら、入居者のマンションの契約のときに添付して渡してほしい。

推進計画は拘束力があるわけではないので、他区で作った条例ほどの拘束力はないのではないか。この管理計画は今後条例を作っていくためのベースとなるものを作ったということなのか。

みらいくる会議としては、条例等をつくって、一步一步前進してもらいたいというのが我々としての要望だと、理解しているし、皆さんもそういう思いの方ばかりだと思う。区として今後対応していただけるのか。

条例があったほうが良いとは思いますが、そのために労力かけても作っても、あまり変わらないのではないか。きちんと守らないと過料が発生するとかしないと、さほど影響ないのではないか。

労力かけるのならば、学生の知恵とか、困っているマンションに補助金を出すとかというようにして、随意的にやっていったほうが余程効力あるのではないか。

みらいくる会議でも、継続しながら、制度設計のような、法律とかのがちがちの制度でなくて、ちょっと緩い、人を動かすような、制度づくりを考えてもいいのではないか。

面白いアプリをつくって競争させたらどうか。例えば、いろんなところでアプリを何種類も出して、その中で一番いいのを決めるとか、そういうコンテストが面白いと思う。

千代田区エコ大会に、ふるさと納税で資金を集めて、小・中学生にプログラムで競ってもらおうとか、そういう今までにないことをやってみたらどうか。

アプリ、アプリと言うが、まだまだスマホを持っていない、ガラケーも持ってない、固定電話だけというような人もいます。そういう人のために、スマホを配って、利用できるよう

にしないといけない。

二十五、六年前に建てたマンションが、ひどい状態になっている。これは、住宅課の管轄になると思うので、清掃事務所からは言いづらいのかなと思うが、マンションの管理と環境という意味での廃棄物問題への方策を区がやってもらえるとよいと思う。

回答：いただいた今日の見解については、私ども清掃事務所と同じ環境まちづくり部という中の組織での対応になるので、ご意見は環境まちづくり部の建築指導課、または住宅課等の関係する部門のほうに共有させていただいて、もし何かフィードバックできることがあれば、次回またお話をさせていただく。

委員長総括：ごみの出し方などにつきましても、この会だけではなかなかしっかりとまとまらないということは、今日の議論の中でもわかったが、仕組みづくりということの大切さということも、やはり今後も我々としては声を出し続けていくということも必要だと思っているので、こちらについても、何か分かった時点でこの会に報告いただきたいと思います。

## ② みらいくる会議で検討する事項について

情報提供：区では新たに千代田区の将来像やあるべき姿を示す、第4次の基本構想の策定を進めている。その中で、「伝統と未来が調和し、躍進するまち」、サブタイトルとして、「彩りあふれる、希望の都心」というものを今回掲げている。

その実現のために来年度予算編成方針で「資源循環型社会・経済の実現に向けてごみの減量・資源リサイクルを推進する」として、詳しくはごみの適正処理とリフューズ、リデュース、リユース、リペア、リサイクル、従来の3Rに加えてリフューズとリペアを加えた形で、5Rの推進に取り組むこととしている。

ごみの減量・資源化、サーキュラーエコノミーの実現に向けて、一般廃棄物処理計画の改定検討を開始するとともに、食品ロスの削減を図るため食品ロス削減に関する計画を策定する。増え続けるプラスチックごみ対策として、使い捨てプラスチックの削減やリサイクルを推進するという方針を立てている。

## ③ その他

次回の予定を周知

終了